

平成29年度学校関係者評価書

1 本年度の学校経営

(1) 重点目標

ア 学習指導の充実により、学習に対する意欲・関心を育み、確かな学力の向上を図るとともに、自ら学び、自ら考える態度を育成する。
イ 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実により、規範意識や基本的生活習慣の定着を図るとともに、困難に負けない強い心と他を思いやる豊かな心を育成する。
ウ 発達段階に応じた健康・安全指導の充実により、体力の向上を図るとともに、自他の健康安全を適切に守る態度を育成する。

(2) 学校経営方針

ア 生徒一人ひとりが主体的に学び、自らの能力を ・授業が真剣勝負の学校 ・個に応じた指導が充実した学校 イ 生徒一人ひとりの感性と倫理観を培い、協調性と社会性を育む学校づくり ・明るい笑顔の挨拶が交わされる学校 ・生徒最優先の姿勢に徹し、すべての生徒の こころの発達を支援する学校 ・部活動・学校行事・ボランティア活動に励む活力 ある学校	ウ 互いに夢を語り、チームで切磋琢磨する学校づくり ・自己実現のために大学等への進学を希望する生徒 を支援・育成する学校 ・一人ひとりの興味・関心、適性等を考慮したきめ細かい進路指導をする学校 ・社会に即戦力として求められる自立して生きる力を 育む学校 エ 保護者と地域、学校の三位一体の連携を重視した、信頼される学校づくり ・課題から見える使命を追求し実現しようとする学校 ・教職員が協働する組織的な教育活動を展開する学
---	---

(3) 学校関係者評価基準

自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
A 適切な評価である	A 十分な効果が期待できる
B ほぼ適切な評価である	B ほぼ十分な効果が期待できる
C やや不適切な評価である	C あまり効果が期待できない
D 全く不適切な評価である	D 全く効果が期待できない

2 学校自己評価結果

自己評価基準（ 4：十分である 3：おおむね十分である 2：やや不十分である 1：まったく不十分である・改善を要）						3.3以上		2.7以下	学校関係者評価	
領 域	対 象	番 号	具 体 的 評 価 項 目	自己評価			成果と課題	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
				h29	h28	h27				
学校運営	組織運営	1	生徒・学校・地域社会の実態に即した重点目標、経営方針が設定されている。	3.1	3.0	2.9	重点目標と経営方針の設定は、保護者アンケートから理解が得られていると判断する。また、それらの具現化による教育活動も概ね十分である	国や時代の動向に対応しながら、目指す学校像の一層の明確化・焦点化を進める。	B	B
		2	学校経営方針が全教職員に周知され、協働のもと課題解決へ向け機動的に取り組んでいる。	2.9	2.8	2.7	各自が自律的に業務改善する意識を高めるとともに、より一層機動的・機動的に業務を遂行する必要がある。	学校課題、方策、解決工程を確実に共有し、分掌主導の組織運営を実践する。	B	B
		3	各会議・委員会をとおして、学年・分掌業務の調整・連携が図られている。	2.9	2.6		教育環境の変化及び学校課題に対応して、各種委員会・分掌の業務について整理と体制整備が必要である。本年度は情報部を廃し、組織の見直しを行った。	教育活動を分掌・委員会が計画立案し、関係職員全体での実施する体制の整備を進める。	B	B
		4	時間外勤務の縮減及び教職員の健康を保持する取組を進めている。	2.4	2.4	2.5	教職員の健康保持の取組と意識の向上に努めるとともに、入選業務での長時間勤務の割振を実施するなど、地道な努力を続けている。	諸制度を有効に活用するとともに、業務の習熟と早期からの計画的実施により効率化を図る。	B	B
	信頼される学校づくり	5	HPの更新や懇談・通信をとおして積極的な情報発信・情報交換に努め、説明責任を果たしている。	3.1	3.1	3.1	諸制度を有効に活用するとともに、業務の習熟と早期からの計画的実施により効率化を図る。	個別にHPを更新するだけではなく、全体としてHPがどうあるべきかを改めて考える。	B	B
		6	地域の関係機関、中学校、保護者と連携した取組を実施するとともに、PTA活動が活発に行われている。	3.1	2.9	2.9	高大連携、町教育振興会との協議、文化系部活動を中心に地域と積極的に関わるとともに、PTAと連携した取組など、学年・分掌とも連携を深めることができた。より一層、地域の教育資源を取り入れる仕組みが必要である。	諸制度を有効に活用するとともに、閉庁日の設定や部活動休業日の年間計画の作成と実行に取り組む。	B	B
		7	○教職員各自が不祥事を起こさぬよう服務規律保持を意識し、自己管理が適切にできている。	3.5	3.7	3.0	服務規律保持と自己管理の意識は適切に醸成されてきている。	心に届く職場研修など実効性のある取組を実施し、服務規律保持に万全を期す。	A	A
		8	○学校課題に基づいた組織的・計画的な研修が実施されるとともに、教職員各自が校外研修や研究活動に積極的に取り組み、成果の還元を図っている。	2.9	3.0	2.7	管内外の研究会等に積極的に職員を派遣した。また、教育界改革に関する校内研修会を、外部講師を招聘して実施するなど、職員の資質向上の充実に努めた。	新学習指導要領や高大接続改革へ対応するための情報収集を図るとともに、校内研修等を通じて取り組みを進めていく。	B	B
教育活動	学習指導（教育課程を含む）	9	教育目標、重点目標、生徒の実態を踏まえ、教育課程委員会をとおし、生徒の自己（進路）実現を図るよう教育課程の点検・実施を行っている。	2.9	2.9	3.0	生徒の実態を十分に踏まえた教育課程の編成に努めてきた。	教育課程委員会と各教科、教務、各学年との連携をより密にする。	B	B
		10	○基礎・基本の確実な定着を目指し、生徒一人ひとりが達成感を得られるよう授業改善を行っている。	3.0	3.0	3.0	各教科指導における基礎・基本の徹底指導及び各学年の朝学習・朝テストの実施。	継続指導及び国英数の実力養成を中心に習慣化を進める。	B	B
		11	○授業形態（アクティブラーニング型の研究）や教材の工夫・改善を図り、自ら学び自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成に努めている。	2.9	2.9	2.9	学力向上に関わる研究指定の研究協議への参加。	各教科における研修及び各種研究会の職員への還元。	B	B
		12	○評価の観点を明確にし、思考力・判断力・表現力を育成する評価を行うとともに、生徒一人ひとりの学力・学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。	2.9	2.8	2.8	シラバスに掲載及び適切な評価・考査の実施をした。	今後も適切な評価・考査問題の作成をしていく。	B	B
	生徒指導	13	○挨拶指導を中心に、身だしなみ・言葉遣いの大切さを理解させ、規範意識の育成や基本的生活習慣の定着を図る指導を機会あるごとに行っている。	3.3	3.2	2.8	先生方において、ここ数年の中では一番厳しく挨拶や服装指導を実施した。校外にも目を向け、学校周辺や市内の公共施設などの巡回を実施した。	身だしなみ、言動、マナー等、外部や社会に通用する生徒の育成を目指す。	A	A
		14	◎個別面談を活用するとともに、保護者・地域・関係機関との連携を密にし、個々の生徒の変容を的確に把握した指導を行っている。	3.2	3.1	3.0	担任面談だけでなく、『生徒の悩み調査』を実施した。地域のカウンセラーを利用するなど、柔軟に生徒理解の充実に努めた。	スクールカウンセリングの充実。いつでも相談しやすい校内環境の整備を目指す。	B	B
		15	いじめ防止基本方針に基づく、いじめ未然防止・根絶に向けた取組がなされている。	3.2	2.9	3.1	いじめ調査の回数を増やし、『生徒の悩み調査』を行い、担任の素早いケアと職員間での情報共有に努めた。ネット利用に関するマナー指導の充実に努めた。	ネットパトロールの充実やネットモラル向上のための講演を実施する。教育相談の充実を図る。携帯電話の預かり指導を全学年で実施する。	B	B
		16	◎生徒会活動、HR活動、ボランティア活動の活性化を図るとともに、生徒の自主性を育成するよう指導している。	3.0	2.8	3.0	校周辺から大成駅までの清掃活動を5回実施したが、生徒会執行部に限らず一般生徒からの参加者が増えた。リーダー研修会を実施し、運営側生徒の資質向上に努めた。	行事や生徒会の意義について改めて指導し、生徒のより積極的な自主的活動につなげたい。	B	B
		17	○部活動について、適切な指導計画のもと、自主性を高め、学習との両立を図るよう指導している。	3.1	3.0	2.8	全国大会～スピードスケート、フィギュアスケートが進出。全道大会～陸上・卓球・水泳・吹奏楽・写真・美術・放送・新聞が進出した。	部活動を生かし、元気で諦めず粘り強く社会に通用する生徒の育成充実。団体種目・競技での全道大会進出を目指す。	B	B
	進路指導	18	キャリア教育の全体計画に基づき、学年や教科及び関係機関と連携したキャリア教育が実施できている。	3.1	3.1	2.9	計画に基づき、計画的に実施することができた。	今後も進路指導部、学年、教科とより一層連携を深めていきたい。	B	B
		19	キャリア教育をとおして職業理解と自己理解を深めさせ、進路意識を向上させることができている。	3.0	3.1	3.0	インターンシップや就職学習会等を通じ、進路意識を高めることができ、就職者の内定状況は好調だったが、内定者の事後指導が不十分だった。	進路指導部と学年が連携し、内定者の事後指導を強化していく。	B	B
		20	◎進学・就職に向けて、生徒に各種模擬試験、検定取得、講習、模擬面接や就業体験等へ積極的・継続的な参加をさせることができている。	3.2	3.3		模擬試験、検定を受ける生徒が昨年よりも減少した。	講習、模擬試験、検定等を受ける意義を進路通信、学習会などで伝えていく。	B	B
		21	進路に関する情報・資料の収集・活用、生徒・保護者への情報提供・相談を積極的に行っている。	3.1	3.2	3.0	PTA進路講演会の参加者が増え、体育館で実施をした。（85名参加）	来年度の進路講演会は2分野に分けて、進学（大学・看護）、就職（公務員・民間就職）に分けて、内容を充実させる。ファインシステムの導入を図り進学指導を充実させる。	B	B
		22	家庭・地域と連携し、社会人として必要とされる能力を高め、進路希望を実現させることができている。	3.0	3.0		帯広大谷短大との連携により、本校生徒の入学金が10万円免除となった。脳損傷ケアボランティア全国大会に3年生の公務員志望者や看護志望者が多数参加した。	ボランティアの重要性を理解させて、芽室町夏休みボランティア、大谷短大のインターンシップに参加するように促していく。	B	B
	健康・安全指導	23	健康安全意識の高揚を図るとともに、実効性のある保健講座（薬物乱用防止・性に関する指導など）を行っている。	3.3	3.2	3.1	年間計画に沿って計画的に実施している。	外部講師の選定、講座内容について精査し実施していく。	B	B
		24	◎保健室利用状況から生徒の実態が把握され、養護教諭と担任・家庭との連携が密にとれている。	3.3	3.3		養護教諭、担任、教科担任間の連携、保護者との連携を取りながら生徒の実態把握に努めている。	今後も継続していく。	B	B
		25	教育相談や特別な支援を必要とする生徒への指導について、関係機関との連携と体制整備が図られている。	3.0	2.8	2.9	スクールカウンセラーの運用体制について、教育相談委員会を中心に指針を作成し、スクールカウンセラーを活用した相談体制の充実を図ることができた。	引き続き、関係機関との連携を深め、本校の定型を構築するよう校内体制の整備充実を図る。	B	B
		26	交通安全・防災の意識及び危機対応能力を高めるよう、関係機関と連携し、AED講習・避難訓練などをとおし効果的な訓練・指導ができている。	3.4	3.1	3.1	AED講習会、避難訓練ともに茅室消防署の協力を得て実施している。	ホームルームや集会等、機会ある毎に交通安全、防災について呼びかけ指導を継続していく。	A	A
学校運営	事務部運営	27	◎教育活動に支障がないよう、全職員が協力し、校舎内外の施設・設備の点検・維持管理が適切に行われている。	3.1	2.7	2.3	成果：補修調査提出による施設・設備の補修の実施、漏電改修及び排水設備工事2件 259,200円。課題：補修調査による予算要求を行っているが、配分が得られず苦慮している。体育館暗幕については、4年計画で整備を行っている。	全教職員が協力し点検を行うとともに、情報を共有し知恵を出し合いながら速やかな対応に努める。予算の枠うものについては、年間校舎補修予算が、87,000円であり予算増額及び速やかな予算配分を会計課に訴えていく。	A	B
		28	事務と各分掌・学年・委員会との連携（窓口業務を含め）が密にとれている。	2.9	2.9		成果：国庫補助事業において予算要望、理科設備（超音波洗浄機）の更新を行った。課題：事業実施にあたり限られた予算の中、物品・予算要求及び相談されることが多々あり苦慮している。職員との情報共有と工夫が必要である。	教職員の情報共有を図り、窓口を明確にする。また、予算の必要となるものについては事前に打ち合わせを行う必要がある。	B	B
		29	○学校事務効率化のために全教職員の協力体制が確立されている。	2.8	2.9		課題：各種書類提出等を含め、書類の不備、提出期限が守られず苦慮している。	各種書類等の速やかな提出について引きつづき協力をお願いする。	B	B
		30	全教職員の理解のもと予算が適切に執行され、外郭団体における会計処理が適切に行われている。	3.1	3.0		成果：年度当初に、配分予算（道費・私費）の概況を明示。また、各会計担当者も出納状況を明らかにし相互牽制が概ね図られている。課題：予算執行にあたり、直前に執行を求められることが多々あり苦慮している。	教職員の情報共有を図り、予算の必要となるものについては事前に打ち合わせを行い計画的な執行に努める必要がある。	B	B